

時の動き

地力をつけ護憲共同で参院選勝利を

新社会党中央本部・書記長
長南 博邦

政権交代を訴えた総選挙は自公勢力が議席を安定的に維持して、立憲民主と共産は議席を減らした。貧困と格差

(差別)で民衆があえぎ、少なくとも不安を持ちながら、そして小選挙区制度の選挙戦で立憲野党が候補者を統一し、自公勢力と対峙したにもかかわらず、政権交代という結果を出せなかった。

もう一步だった31選挙区

そればかりか、日本維新が議席を4倍化し、自公と合わせ改憲発議議席を上回った。その結果、立憲民主の枝

野幸男代表が辞任し、財界や主要マスコミが共産党との共闘が立憲民主の票を減らしたと声高に叫んでいる。

しかし、立憲民主党が選挙区で当選できたのは多くのところで共産党や他の立憲野党のおかげであるのは歴然としている。しかも31選挙区は負けたとはいえもう一步だった。

つまり、立憲民主党も含めて権力に打ち勝つ地力がないことが接戦を勝ち抜けない主要因ではないだろうか。もちろん候補者統一を主導する立憲野党の構えや一本化調整、消費税に関する政策の立ち遅れは勝てる選挙も勝てなかった要因の一つだ。各地の市民連合

がいかにいらいらしながら野党の候補者統一を願って運動を展開したことが

資本・連合が労働者をハラハラに

しかし、これを枝野前代表の責任で終わらせるわけにはいかない。連合が事あるごとに共産党との共闘に水を差した。連合の旧同盟系産別は企業の競争や産業政策に膝を屈している。トヨタ労組が現職の組織内の旧民進党系の議員を見限って、候補者本位・政策本位として自民党との連携模索に転じたのはその象徴だ。

高度成長から低成長に変わった時点

◆時の動き



2022年7月に行われる参院選で議場を護憲共同で埋める

で資本側は、限られた経済成長のパイの中で利益を確保しようと抵抗する労働組合の弱体化を図った。資本の海外進出の安全のために自衛隊がいつでも米軍と協力できるようにと改憲を図り、野党第一党を破壊した。国民は自立と自己責任を押しつけられ、組織化と団結こそが生きる道である労働者はバラバラにされた。

あれほど強かった消費税に対する反発も弱くなり、いまや消費税増税しか新たな財源がないように思わされている。大平正芳首相が79年の訪米で日本は米国の同盟国と発言しただけで国内では猛反発されたが、いまや野党第一党ですら日米同盟機軸と主張する時代だ。

つまり思想的にも組織的にも大きく後退した今日、何としても政治を変える必要はあっても結果を出すのは簡単ではないことを今回いやというほど学んだ。

その点自民党は21年春の国政三選挙で敗れ、続く都議選でも想定した結果にはるかに及ばなかったことを総選挙で活かした。都議選では定数1の小金井と武蔵野選挙区で立憲候補者が野党統一で勝利した。定数2の日野選挙区では共産党が当選している。つまり、野党統一に強い危機感を持ち、総理総裁を交代させ必死の選挙戦を闘った。

となると、私たちは7月の参院選での32の定数1の選挙区でいち早く候補者を統一し準備に入ることが欠かせない。

労働者の組織化と団結づくりを

新社会党は中央共闘には参加できないが、県単位で共闘に参加し、働く人々が安心と希望を持ち、平和のもとに日々を暮らせる社会に転換するために全力を尽くす。またそれを通して来年の統一自治体選挙で自治体議員の拡大をはかる。都議選の小金井選挙区で野党候補が勝つたのは小金井市議会の大多数派が民主派・革新派であり、それを生む市民力があつたためだ。政治の信頼に身近な自治体議員が果たす役割は大きい。そして日々働く職場での労働者の組織化と団結の強化をはじめ、日常活動が欠かせない。

(おさなみ ひろくに)